

## 40回大会を迎えて

財団法人日本中学校体育連盟バドミントン競技部

競技部長 小野 理



本年8月、岡山県倉敷市で開催されます「全国中学校バドミントン大会」が第1回大会から数えて40回を迎えます。一口に40回といいますが、第1回大会を開催した年は昭和46年（1971年）でした。前年の昭和45年には大阪万博が開かれ、我が国は高度経済成長の頂点に達した時です。スポーツを楽しむことがごく一般の人々にも浸透し、さらには、中高校生の誰もが部活動に興じる時代の到来の頃でした。昭和30年（1955年）には全国中学校体育連盟が発足はしていたものの、全国大会の主催は財団法人日本バドミントン協会でした。昭和54年（1979年）に、全国中学校選抜競技大会開催基準制度「児童生徒の運動競技について」の基準に従い、学校教育活動内の大会として位置付けられ、全国中学校体育連盟との共催となり、昭和55年（1980年）、熊本市の第10回大会より現在のようなブロック大会を経た、学校対抗戦の全国中学校バドミントン大会となりました。私は平成3年（1991年）から競技部長を務めることとなり、この全国中学校バドミントン大会の半分に微力ながら携わることができましたことは感慨無量であります。また、私にとっても長年の懸案でありました「記念誌」を沢山の皆様のご協力とご支援をいただき、小冊子ではありますが、発刊できましたことは誠に喜ばしいことです。

今回の「40周年記念誌」の内容は、「全国中学校バドミントン大会」にとどまらず、我が国の中学生バドミントンに関連した内容になったことも特筆すべきことと思います。現在の中学生を取り巻くバドミントンが充実し、円熟期に入ってきている証でもあります。しかしながら、この「全国中学校バドミントン大会」が国内で最も歴史と伝統のある権威ある大会であることは今後も変わることはなく、「全国中学校バドミントン大会」で活躍した中学生が今後の我が国のバドミントン界を担っていくことは間違いのないことです。また、第1回大会より財団法人日本バドミントン協会には、様々な面でご支援をいただき、深く感謝申し上げますとともに、今後も連携を深めるとともに、中学生バドミントン選手の育成にお力添えをいただきたくお願いします。

最後に、一昨年の北京オリンピックではバドミントンが過去にない話題を得ました。現在の中学生が多様なスポーツを選ぶ中、ある意味手軽に出来るバドミントンが大人気でもあります。また、先日の全英選手権大会での田児賢一選手の男子シングルス準優勝も夢ではない目標として、中学生に大きな励みともなっています。本当に注目度を大きくアップしているバドミントンです。これからのさらなる躍進を祈念し、発刊のご挨拶とさせていただきます。